

令和2年度日本語指導支援推進校事業

実践報告集

兵庫県教育委員会

目 次

はじめに

1 本資料について

- (1) 日本語指導支援推進校事業について 1
- (2) 本資料の活用について 1

2 日本語指導について

- (1) 日本語指導とは 2
- (2) 外国人児童生徒のためのJ S L対話型アセスメントD L A 2
- (3) 特別の教育課程 2
- (4) 個別の指導計画（年間指導計画） 2
- (5) J S Lカリキュラム 3

3 各校の実践報告

- A 日本語指導
 - A-1 4
 - A-2 6
 - A-3 10
- B 国語
 - B-1 13
 - B-2 15
 - B-3 19
- C 算数・数学
 - C-1 22
 - C-2 25
 - C-3 30
- D その他
 - D-2 33
 - D-3 36

◇ 参考

J S L参照枠（全体）とD L A（4技能）の評価例

はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、114,927人（令和2年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は3,389人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は1,115人（令和2年5月1日現在）であり、近年増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成28年度から、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施し、3市（姫路市、芦屋市、三木市）14校に日本語指導支援員を派遣しています。2019（平成31）年度からは、県立伊丹北高等学校、県立加古川南高等学校の2校が外国人生徒の特別枠選抜校に加わり、本事業の重要性はますます高まっているといえます。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、令和2年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実が大いに活用されることを期待しています。

令和3年3月

兵庫県教育委員会

1 本資料について

(1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

令和2年度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。なお、本資料は子ども多文化共生センターのホームページに掲載しています。

(2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」（平成26年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

下の表は、児童生徒の日本語習得状況と領域（日本語指導及び教科）を示しています。各推進校の実践を、表をもとに分類をしていますので参考にしてください。

日本語の学習段階	日本語能力の把握の方法		領 域		
	DLA（ステージ）	A 日本語指導	教 科		
			B 国語	C 数算 学数	D その他
教科につながる 学習段階	6	A-3	B-3	C-3	D-3
	5				
初期の後期段階	4	A-2	B-2	C-2	D-2
	3				
初期の前期段階	2	A-1	B-1	C-1	D-1
	1				

2 日本語指導について

(1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

(2) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが対面で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

(3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

(4) 個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人一人の実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や單元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには様式が掲載されております。

(5) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a second language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

■参考資料

1 文部科学省

海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ
『CLARINET へようこそ』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet



2 子ども多文化共生センター（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



3 各校の実践報告

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年6月22日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第1学年
- ② 国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間：7ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・あいさつ程度の会話はできるが、生活言語、学習言語ともに理解は難しい。
 - ・ひらがなの読み書きが少しできる。
 - ・音読は一字一字指でたどりながら読む。
 - ・黒板の字を見てゆっくり写すことができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：みじかい文をつくってかこう。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・絵カードを見て、新しい言葉を繰り返し唱え覚えることができる。
- ・短い文を作って、話したり書いたりできる。

5 指導内容の概要

- ・短い文「〇〇で～へいきます。」を作ることを知らせる。
- ・絵カードやイラストを見て、場所や乗り物の名前をくりかえし唱えさせる。
- ・覚えた言葉を使って、短い文を作り、話したり書いたりさせる。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・楽しく活動できるよう、対話を大切にしながら学習を進めた。
- ・例文を教師と一緒に作り、練習してから自分でも作らせた。
- ・在籍学級での学習活動につながるよう、板書を見て写すことを取り入れている。
そのため、板書を正しく写したり、字も見やすく丁寧に書いたりできるようになった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・乗り物カード（くもん）
- ・イラスト（場所）カード（自作）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A－2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年6月19日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第1学年
- ② 国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間：32ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

6月に転入。教師や友だちの話していることをよく理解している。自分の思いをゆっくりであるが話すことができる。ひらがなや数字が鏡文字になることがある。文節や意味のまとまりで区切って読むことができるが、教科特有の語彙の入った文章は理解しにくい。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：絵本の読み聞かせを聞いて、あらすじや感想を書こう。
※日本語指導：あらすじや感想を書こう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・話の大筋をつかんで、あらすじを話すことができる。
- ・対話を通して感想を引き出し、書くことができる。
- ・他の児童の感想を読み、理解することができる。

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

- ・学校図書館司書補助員に学年相応の絵本を3～4冊選び、読み聞かせしてもらう。
- ・お気に入りの一冊のあらすじを話し、対話を通して感想を引き出し、読書記録に書かせる。
- ・他の児童と感想を読み合い、「読む」機会を増やす。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ① 児童の興味や季節に合った絵本、さまざまな国の文化に触れることのできる絵本を選び、他国の文化を知り、知識や語彙が増えるようにした。
- ② 書いたものには修正を加えず、学習成果物として綴ることで、1年の成果を見られるようにした。
- ③ 対話を通して感想を引き出すことで、書きたいことが明確になり、文章化することができた。
- ④ 他の児童と書いた文章を読み合うことを通して、友だちの書き方の良さや感じ方の違いに気付くことができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ 図書室の本
- ・ あらすじや感想を書く紙
- ・ 綴るファイル

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

自分のおすすめの本を準備し、自らその読み聞かせをするなど、読書活動に前向きに取り組めた。



1年学習指導の流れ

本時の展開

① 目標：絵本の読み聞かせを聞いて、あらすじや感想を書こう。

② 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1 3～4冊の絵本の読み聞かせを聞く。	・ 季節や児童の興味を考慮して様々なジャンルの絵本を読み聞かせする。	○話の大筋をつかんであらすじや感想を書くことができる。
2 自分が気に入った一冊の絵本のあらすじを話す。	・ 内容理解を深めるために、質問をしながらあらすじをおさえる。	
3 対話を通して感想を話し、読書記録に書く。	・ 対話を通して文章化していく。	
4 友だちと交流する。	・ 友だちとの感じ方の違いに気付かせる。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年10月15日）

D L A ステージ	ステージ 3
------------	--------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（中）第1学年
- ② 国籍及び母語：日本、中国語
- ③ 在留期間：1ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

・中国から令和2年9月に再来日。転入当初は、日本語は挨拶程度しか話せなかったが短期間で慣れ、漢字の意味は分かるので在籍学級での授業も支援を受ければある程度理解できる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

・日本語指導：「かな五十音」

- ①（平・片）仮名が正確に読める。50音配列の規則性を認識する。
- ②仮名を含んだ単語が読める。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ①仮名は日本語習得の基礎であり、辞書引きに必須で辞書活用は自学自習の要件。（動詞の活用についての学習でも「行」や「段」等の五十音の基礎知識は不可欠。）
- ②漢字の訓読みは通常「送りがな」が付き、和語の語彙力の必須条件である。

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

・日本での小3までの就学歴においての仮名読みの力を確認し、五十音配列の規則性について気づかせ、仮名習得を図る。

6 指導における工夫点・学習の成果

・「五十音」は5母音をもとに9子音との規則的な組み合わせであることに気づかせ、仮名の学習の意欲につなげる。漢字の訓読み等、和語習得の抵抗を軽減する。
・小3までの既習の内容であり、再定着は容易であると思われる。

7 教材・教具（開発教材も含む）

・五十音表（日本語チェックシート・兵庫県日本語指導連絡協議会版）
・余りの出る割り算計算練習プリント（時間計測）（中国で計算力は鍛えられているが、間違い訂正するときなどに日本語の数の数え方に馴染ませたい。）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

- ・五十音配列が規則的であることを認識し、改めて興味をもって見直していた。
- ・7の時間計測しながらする計算問題には、意欲的に取り組んでいる。「九九」を中国語でするので、訂正するときには日本語で行うようにしている。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年2月14日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第4学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン・英語
- ③ 在留期間：99ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

【話す力】教科内容に関連した話し合いに積極的に参加することができる。

【読む力】文章全体の大意を把握し、自分なりの意見や感想をもつことができる。

【書く力】内容に見合った語彙や表現や文体、学年相応の漢字を使って作文を書くことができる。

【聴く力】通常の速さで進む教科学習の中で教師が説明する内容をほとんど理解できる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：説明文を正しく読み取ろう。「くらしとごみ」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・語彙を理解させるとともに、読解する力をつける。
- ・助詞、つなぎ言葉、指示語を正しく理解する。

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

- ・説明文テキスト（小3程度）を読み、読解問題に答える。
- ・助詞、つなぎ言葉、指示語を正しく理解する。
- ・読み取った内容について、自分の言葉で説明する。

6 指導における工夫点・学習の成果

本児童は、文章全体の大意を把握することができ、教室での学習においても教師の支援を受けなくても、参加することができる。そのため、より正確な読解力をつけ、学習や日常生活に生かすために、様々な説明文を自力で読み取る練習をすることが大切であると考えられる。そこで、一学年下の説明文を読解する練習をし、読み取りを間違った点について、その原因を理解させるようにした。そうすることで、助詞、つなぎ言葉、指示語を正しく理解する力が少しずつ身についてきた。また、語彙も広がりがつつある。

7 教材・教具（開発教材も含む）
ちびむすドリル 説明文プリント

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

説明文の内容について、ほぼ理解できるので、「全部わかる。」と答えることが多い。しかし、確認のため、語彙の意味を説明させるようにした。意味を間違えて理解していることもあったため、正しく理解させるようにした。また、問題文の意味が分からない場合もあったため、繰り返し読ませたり、問題を解くのに必要な手掛かりとなる言葉にマーカーを引き、本人に気づかせるようにした。また、つなぎ言葉と指示語を取り出し、それらの役割と意味について確認するようにした。そうすることで、つなぎ言葉や指示語に着目して、読み取ることで説明文をより正しく読み取ることができると気づくことができた。また、説明文を読み、家で気をつけているごみの分別などについて、話した。説明文を読み、読み取ったことを指導者に説明したり、その内容について自分の考えを話すことにより、語彙が広がり、より理解が深まった。



4年学習指導の流れ

目標：説明文を読み、語彙や助詞、つなぎ言葉、指示語を正しく理解し、内容を理解する。

展開

学習活動	指導上の留意点	評価方法（ ）
1 説明文テキスト「くらしとごみ」を読む。	1 学年下の説明文だが、まずは自力で読み取らせる。	
2 語彙の意味について確認する。	語彙の意味について説明させる。	
3 説明文の問題に答える。	問題を解くのに必要な言葉に着目させることにより、丁寧に読み取らせるようにする。	説明文の意味を理解している。 【知識・理解】 (プリントの解答)
4 説明文テキストの助詞、つなぎ言葉、指示語の役割や意味について、確認する。	つなぎ言葉や指示語を見つけさせ、役割や意味を考えさせる。	つなぎ言葉の役割や指示語のさす内容を理解している。【知識・理解】(説明)
5 読み取った内容について話す。	どんなことが書いてあったのかを説明させる。 説明文に書いてある内容だけでなく、ごみを減らすために家や学校内でできることについて話を展開する。	説明文に書いてあることを自分の言葉で説明できる。(話す)

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年6月25日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第2学年
- ② 国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間：25ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・日本語は概ね習得できている。
 - ・学習した漢字の読み書きも概ねできている。
 - ・九九を唱えることは苦手で、定着していない。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：なかまのことばとかん字

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う。
- ・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づく。

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

- ・教科書の言葉をカードにし、言葉を仲間に分ける。
- ・教科書を参考にして、他の言葉を集める。
- ・言葉の仲間分けゲームをする。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・ゲームを取り入れることによって、言葉に興味を持ち、日常的に使う言葉の数を増やすことができた。
- ・日本語の学習だけでなく、母語のポルトガル語を取り入れた教材を活用することによって、意欲的に取り組むことができ、自尊感情を高めることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ワークシート「プロジェクト トゥカーノ」（日本語と母語「ポルトガル語」）
- ・言葉カード（絵入り）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年5月22日）

D L A ステージ	ステージ 3
------------	--------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第5学年
- ② 国籍及び母語：シリア・アラビア語
- ③ 在留期間：57か月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
日常会話がある程度できる。教科学習にもある程度参加できている。
同じ学年の宿題と日本語からの宿題をこなしている。
文章を書くことができるが、文章構成があやふやである。文章読解に苦手意識が強い。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名） 総合：自然学校の経験を4年生へ伝えよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・自然学校での経験を新聞にまとめる
- ・事実と考えを分けて文章を書く力

5 指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）

6 指導における工夫点・学習の成果

自然学校での思い出（特によかったこと）を箇条書きでノートに書きだした。その中で、自分が特に4年生（下級生）に伝えたい、広めたい事柄は何かを2つに絞らせ、順位付けをした。教師が定型文を提示しながら自分が経験したこと、経験して感じたことを分けながらノートに下書きをさせた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・自然学校活動写真
- ・他の児童の書いた成果物

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

下書きの段階である程度型ができたので、何を書きたいのか具体的に詳しく書くことができた。また、写真を付け加えることで、説明内容がより分かりやすくなった。文章を書く力が向上したことを称賛し、学習意欲が高まった。



新聞写真



活動の様子

9 活動の流れ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつをする。 ・めあてを確認する。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 書きたいことを箇条書きにする。	・写真をみて、自然学校での活動を想起させ、会話しながらノートに箇条書きにする。
3 書きたいことを2つに絞り、文章を書く。	・なるべく自分の言葉を文章化させ、文末表現等誤字脱字の訂正を教師は指導した。 ・感じたことは、「～です。」「～でした。」「～と思いました。」資料を活用したときは、「～だそうです。」と文末にも注目して書かせる。
4 次時の活動の確認をして、ふりかえりを行い、あいさつをする。	・学習の流れの見通しを持たせることで、やるべき内容がわかり、スムーズに学習に取り組めるようにする。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年2月3日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年：（中）第2学年
- ② 国籍及び母語：中国・中国語
- ③ 在留期間：55ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

ある程度の日常会話はできる。しかし、家庭ではほとんど両親と中国語で会話しているので、発音が中国語のイントネーションになっている。だが、本がとても好きで図書館の利用率も高く、読み書きともに積極的に取り組んでいる。現時点では、学習言語の理解は難しい。分かりやすい言葉に変えて説明すると理解することができる。

3 教科：単元名

○国語科：敬語

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・相手や場面によって言葉の使い分けができるようになる。

5 指導内容の概要（※指導略案を別紙にて添付）

- ・敬語が三種類あることを確認する。
- ・敬語への理解を深め、使い分けができるようにする。

6 指導における工夫点・学習の成果

単元の初めに取り出しを行った。それぞれの敬語の意味を説明することで、敬語への理解が深まった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

教科書、ノート

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

尊敬語と謙譲語も相手によって使い分けのことを伝え、先生役と生徒役になって会話をしていきながら敬語を理解していくことができ、自信につながったようである。



日本語指導（J S L 国語科）学習指導略案

1 単元名 敬語（「新しい国語2」東京書籍）

2 生徒の実態

小学4年生の時に来日。家庭ではほとんど中国語を使用している。授業中発言することも臆することなくできるが、敬語を使うことは苦手である。

3 目標

- ・事実と筆者の考えとを読み分けながら、文章の展開を捉える。
- ・文章の内容や、筆者のものの見方、考え方について、感想や考えをもつ。

4 指導計画（全2時間）

第1次（1時間）3種類の敬語について確認し、それらの使い方について理解する。

第2次（1時間）先生と生徒の会話の場面でどんな敬語を使ったらいいかを考える。

……本時

5 本時の目標

（1）目標：敬語の使い方について理解を深める。

（2）日本語の目標：敬語に使われている言葉の元の言葉を知り、相手によって使い分けをしていくことを認識する。

6 準備物 教科書、ノート

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 本時の目標を確認する。		
敬語の使い方について理解を深める。		
2 用意した正しい会話を先生と生徒役になりきってお互いに言う。	・状況がわかり易いように、立場を明らかにして、ゆっくり丁寧に言わせる。	教科書
3 どれが敬語であるかを知り、敬意の対象が誰かを確認する。	・敬語を用いているところを伝え、その敬意の対象は誰かを、もう一度セリフを言いながら確認させる。	ノート
4 敬意の対象が相手（先生）なら尊敬語を使い、自分なら謙譲語を使うことを理解する。	・いろいろなシチュエーションを考え、敬語が使えるように練習させる。	
5 本時を振り返る。		

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B－3】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年7月6日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年：（小）第5学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：131ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

友だちとの日常会話には困ることはないが、語彙量は多くない。学習場面では教師の説明が理解できないこともある。漢字の読み書きとともに学習している時は覚えているが、忘れてしまうことが多い。まとまった文章を読んで内容を理解しづらい。

3 教科：単元名

○国語科：敬語

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・敬語の使い方と分類を知る。
- ・敬語を実際に使っていこうという意欲をもつ。

5 指導内容の概要（※指導略案を別紙にて添付）

- ・敬語の意味と種類を知り、実際にどのような場面でどのような言い方をするのかを学習する。最後に、教師に対して実際に使ってみることで、実生活で使う意欲につなげる。

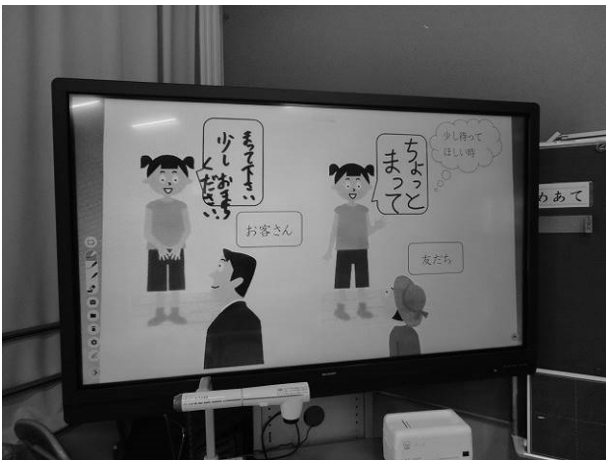
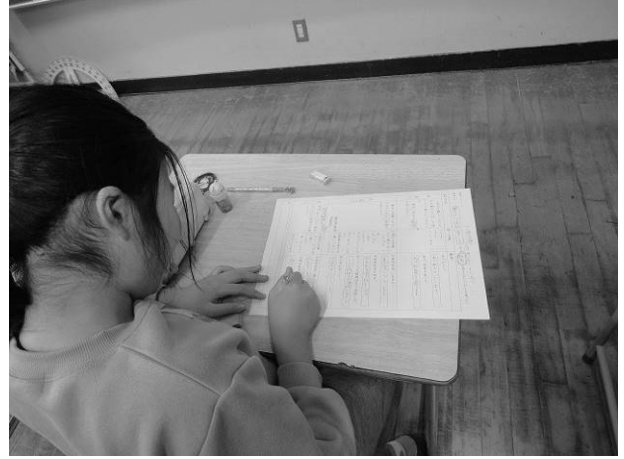
6 指導における工夫点・学習の成果

普段教師に対して使い始めている言葉も敬語の一つであることを伝え、決して難しいことではなく、生活に必要なことを伝えると意欲的に取り組むことができた。また、一人ずつ実際に使ってみる場面を設け、楽しみながら学習できた。

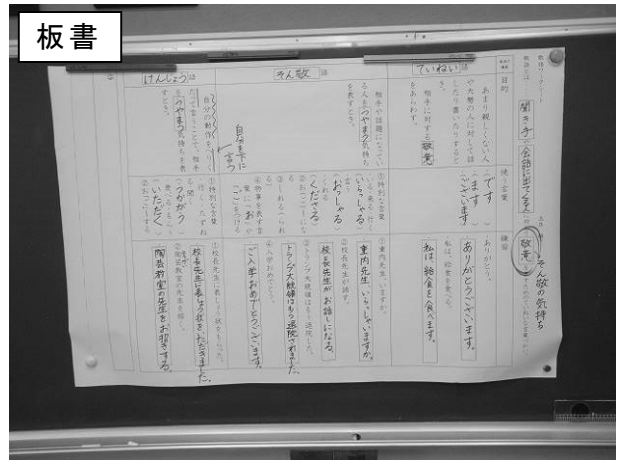
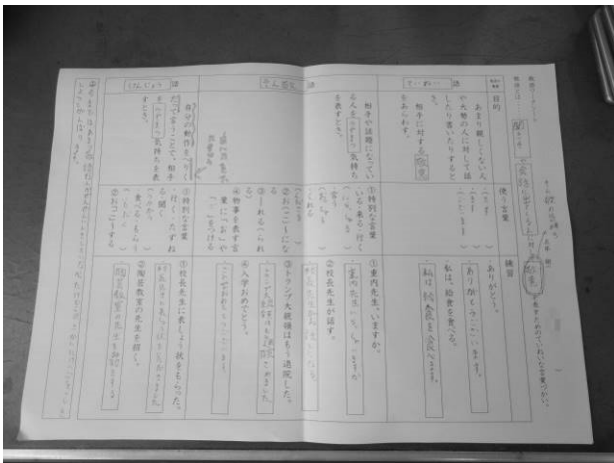
7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（光村図書 5年）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



ワークシート



板書

第5学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導路案

1 単元名 敬語の使い方と分類を知り、場面に応じて使えるようにしよう

2 本時の学習（1/2）

（1）目標 敬語の使い方と分類を知る。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（☆評価）	備考
<p>1 敬語に興味をもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ちょっと待って。 ・少し待ってください。</p> </div> <p>2 敬語の意味を知り、本時の課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のイラスト（吹き出しなし）を見せ、どう言うか考えさせることで、敬語に対し興味をもたせる。 ・今までの言葉使いの経験を振り返らせ、敬語は、特別のものではなく、相手との関係を考えて、普段から使っているものであることに気づかせる。 ・先生、友達、よく知らない人と接する時にどうするかを考えさせ、相手に対して敬意を表す言葉であることを確認させる。 	<p>イラスト拡大図</p>
<p>敬語の使い方と種類を知ろう</p>		
<p>3 丁寧語・尊敬語・謙譲語について整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・私が言います。 ・〇〇先生、いらっしゃいますか。 ・校長先生がお話になります。 ・先生が来られました。 ・ご入学おめでとうございます。 ・先生からお手紙をいただきました。 ・お客様をご案内します。</p> </div> <p>4 学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまとめさせることで、情報を整理し理解させる。 ・今までに学習してきた丁寧な言い方も敬語の一つであることを伝え、敬語を使っていると実感をもたせる。 ・例文を示して説明し、尊敬語は相手の動作や関係する物事を敬う言葉に言い換えていることを理解させる。 ・例文を示して説明し、謙譲語は自分の動作を謙遜した言葉に言い換えていることを理解させる。 ・ペアになり練習することで、敬語に慣れさせる。 ☆敬語の使い方や分類についてワークシートに書き込んでいる。 ・学習した三つの敬語の種類のことを振り返り、次時には実際に練習してみようことを伝え、実践への意欲をもたせる。 	<p>ワークシート</p>

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年6月1日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童生徒の実態

① 学年：（小）第2学年

② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語

③ 在留期間：96ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・日本生まれであるが、一緒に住んでいる母はほとんど日本語ができず、家庭内ではベトナム語で話している。基本的な語句、日常会話などは理解できる。
- ・話す、聞くことが苦手で自分の思いを表現することが少ない。話している内容を理解できていないことが多く、質問に対しての返答が的を射ていない場合がある。
- ・ひらがなは、ほぼ書くことができるが、拗音や促音など正しく表記できていない。

3 教科：単元名

○算数：三角形と四角形

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・三角形、四角形の言葉と意味を知り、書けるようになる。
- ・直角、正方形、長方形、直角三角形の言葉と意味を知り、書けるようになる。

5 指導内容の概要（※指導略案を別紙にて添付）

- ・点をつないだり、紙を折ったりする活動を通して、三角形、四角形の形をイメージする。
- ・三角形、四角形、正方形、長方形などを作り、それぞれの言葉と意味を知る。
- ・具体物を使ってそれぞれの形を仲間分けすることで、各図形の意味を理解する。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・三角形、四角形の言葉と意味を十分に理解させるために、まず線を引く、折る、切るといった活動を十分に体験させ、3本の直線、4本の直線でかこまれた形をイメージさせた。
- ・何度も図形の掲示物を使って仲間分けをすることで、どこに目をつけて分ければいいのかを考えさせるようにした。
- ・ワークシートを使用したことで、新しく覚えた図形の名前や構成要素をわかりやすく書くことができた。

- 7 教材・教具（開発教材も含む）
- ・各図形の意味と性質を書き込むワークシート
 - ・各図形の掲示物
 - ・教科書（啓林館）

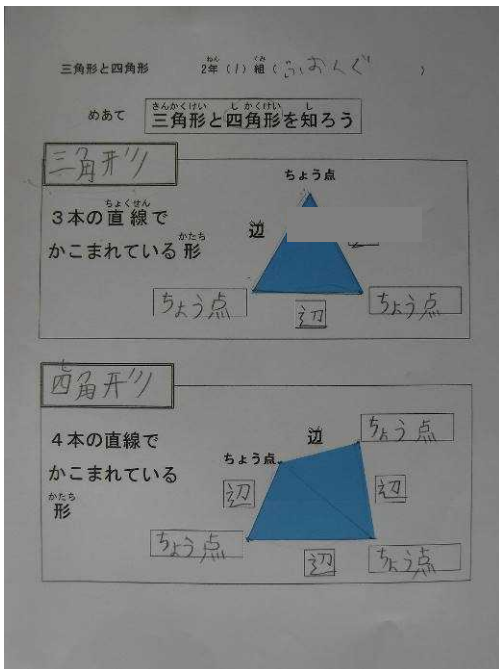
8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



三角形や四角形の言葉を知り、ワークシートに書き込む。



学習したことをもとに三角形や四角形を仲間分けする。



使用したワークシート



学習後の板書

第2学年 日本語指導（JSL算数科）学習指導略案

- 1 単元名 三角形と四角形（啓林館2年下）
 - 2 単元目標
三角形や四角形について、具体的な活動を通して構成要素を知ったり、分類や意味を理解したりすることができる。
 - 3 単元の評価基準
 - ・各図形の意味を理解し、点をつないだり紙を折ったりして作図できる。（知・技）
 - ・構成要素に着目して三角形、四角形の弁別ができる。（思・判・表）
 - ・興味をもって三角形、四角形を作ったり、見つけたりすることができる。（主）
 - 4 単元の指導計画（10時間）
 - 第1次 三角形、四角形の定義を知る（3時間）
 - 第2次 直角、長方形、正方形、直角三角形の定義を知る（7時間）
 - 5 本時の目標
三角形と四角形の意味を知り、構成要素に着目して仲間分けをする。
- 【日本語の目標】
「3本の直線でかこまれた形」、「4本の直線でかこまれた形」について理解する。
- 6 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 前時の学習を振り返る。	○前時で学習したことを振り返り、三角形と四角形の名前を想起させる。 ○3本の直線で囲まれた形、4本の直線で囲まれた形をそれぞれ三角形、四角形ということをもう一度押さえる。	三角形 四角形の 図形
2 本時の課題をつかむ。	○三角形、四角形の図形の構成要素に着目させ、新しい言葉を学習していくことを知らせる。	
三角形、四角形について知ろう		
3 「辺」「頂点」の用語を知る。	○「辺」「頂点」の言葉を知らせ、ワークシートに書き込むことで言葉の定着を図る。 ○実際に図形に触れながら「辺」「頂点」が三角形、四角形のどの部分にあたるかを確認する。 ○それぞれの図形で「辺」「頂点」がいくつあるかを一緒に数え、それぞれの図形の構成要素としてまとめる。	ワークシート 三角形 四角形の 図形
4 三角形、四角形を仲間分けする。	○「辺」「頂点」の数に気を付けながら、図形を仲間分けさせる。	
★評価：三角形、四角形を辺・頂点の数に気を付けて仲間分けできる。		
5 本時の学習を振り返る。	○本時の学びをまとめ、次時の予告をする。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年1月17日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：第6学年
- ② 国籍及び母語：日本・日本語／ポルトガル語
- ③ 在留期間：148ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・ 日常会話はすらすらできる。学習言語を用いて表現することは得意ではない。
 - ・ 算数科には苦手意識があり、興味・関心が低い傾向にある。

3 教科：単元名

○算数科：分数×分数

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・ 「～は～の○倍」という言い方に慣れ、分数倍の意味を理解する。
- ・ 割合を使って「～を1とした時～は○倍」を言い表すことができる。

5 指導内容の概要（※指導略案を別紙にて添付）

関係図を使って、白のリボンの何倍かを求める。

6 指導における工夫点・学習の成果

興味をもたせるために、「白のリボンの3分の2倍のリボンが当たり」という問題に変えたことで、問題を解いてみようという意識が高まった。「～は～の○倍」という言い方に慣れ、関係図を使ってそれぞれのリボンについて何倍かを説明することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



○单元名 分数 × 分数

○本時の学習

- (1) 目標 数量の関係が分数倍(割合)で表された場面で、分数倍(割合)や比較量を求めることができる。

日本語の目標：・「○色のリボンは、白のリボンの□倍です」という言い方で、分数倍を表すことができる。

・「白のリボンを1としたとき、○色のリボンは□倍です」という言い方で、分数倍を表すことができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
<p>1 問題文と4色のリボンを提示し、題意をつかむ。</p> <p>赤 20cm 青 16cm 黄 32cm 白 24cm</p>	<p>○貼られたリボンを見て、予想させる。</p> <p>○児童の興味がわくように、問題を「あたりのリボンを見つける」ことにする。</p>	<p>赤・青・黄・白の4色のリボン</p>
<p>あたりのリボンを見つけよう</p> <p>(あたりのリボンは、白のリボンの「3分の2」倍のリ)</p>		
<p>2 自分で考える。 関係図を使って考える</p>	<p>○白の□倍が赤 (白×□=赤) 白の□倍が黄 (白×□=黄) 白の□倍が青 (白×□=青) という関係を関係図にかいて捉えるようにする。</p>	<p>関係図</p>
<p>3 みんなで考える。</p>	<p>○それぞれの色が白のリボンの何倍になっているか関係図を使って説明する。</p> <p>○説明しやすいように話型を提示し、話型を使って話すようにさせる。</p> <p>・「○色のリボンは、白のリボンの□倍です」</p>	<p>話型</p>
<p>4 たしかめる。</p>	<p>・「白のリボンを1としたとき、○色のリボンは□倍です」</p>	

	<p>○実際には 1 ではない量を 1 としてみることや、「3 分の 2 倍」というのと「割合が 3 分の 2」というのが同じ意味であるといったことを捉えられない場合は、「割合」の意味に立ち返っておさえる。</p>	
--	---	--

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年5月25日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年：（中）第1学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：149ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

生活言語の習得は充分で、日常会話に困ることはないが、複雑な内容や抽象的な言葉の意味を理解することが難しい。教科の学習では、考査等の得点も意識し、意欲的に取り組むことができている。丁寧な個別の指導を受けることで、分からないことを質問したりすることもできている。

3 教科：単元名

○数学科：立体と空間図形

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・正負の計算についての理解と、立体と空間図形における学習言語の獲得

5 指導内容の概要（※指導の流れを別紙にて添付）

6 指導における工夫点・学習の成果

小プリントを使い、簡単な正負の計算式を使って正解に辿りつくことで、自信をつけさせるとともに、実践的な力を養う。立体と空間図形のプリントを使って、円錐、軸など必要な学習言語について、一緒に声に出して読めるかどうかを確認し、それらの言葉について丁寧に説明をすることによって、理解を図ることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

小プリント、立体のプリント、教科書、ワーク

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



指導の流れ

1 題材 「立体と空間図形」

2 目標

立体と空間図形に関する学習言語（円錐、軸、回転など）を予習し、問題の中で使われる言語を理解することによって、一斉授業の前に実践力と自信をつけさせる。

3 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点
<p>1 小プリントで、方程式の計算問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両辺に加減乗除して解く方程式 +…………「たす」「プラス」 -…………「ひく」「マイナス」 ×…………「かける」 ÷…………「わる」 =…………「は」「イコール」 ・移項して整理してから解く方程式 ・分母をはらって解く方程式 	<ul style="list-style-type: none"> ・「等式の性質」、「移項」、「正負の計算」等ミスがあればその都度解説し理解を深める。 ・「+ - × ÷ =」などの記号は、まだしっかり定着していないので混同しないようやさしい日本語を使って説明する。 ・説明しながらでも、解を導くことができたこと、理解できたことをしっかりとほめていく。
<p>2 立体と空間図形 プリント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい単元に入る前に、この単元に出てくる学習言語について、音読させて、読めるかどうかの確認をする。読めた場合は、言葉の意味について説明することで理解をさせ、教室で使われる言葉を事前に習得させる。 ・問題を一緒に解きながら、実践力をつける。理解できたときにはしっかりほめていく。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年6月19日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 児童生徒の実態

- ① 学年：（小）第6学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム語
- ③ 在留期間：134ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

学校生活での日常会話に困ることはないが、一斉授業では集中して聞いたり考えたりすることが難しいことが多い。算数の文章問題の中の言葉や問い方が理解できず、問題が解けないことがある。

3 教科：単元名

算数科：図を使って考えよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・時間とともに変化する数値について、割合を使って解くことができる。
（日本語の目標）
- ・変化する割合を分数で表し、「あたります」という言葉で表現することができる。
「～は、全体の△分の□にあたります」
「～は、△分の□と▲分の■を足したものにあたります」

5 指導内容の概要（※指導略案別紙にて添付）

- ・テープ図を使い、変化する割合を視覚的に把握できるようにする。
- ・テープ図から立式への思考につなげるために、「全体の」「にあたります」という短冊を活用する。

6 指導における工夫点・学習の成果

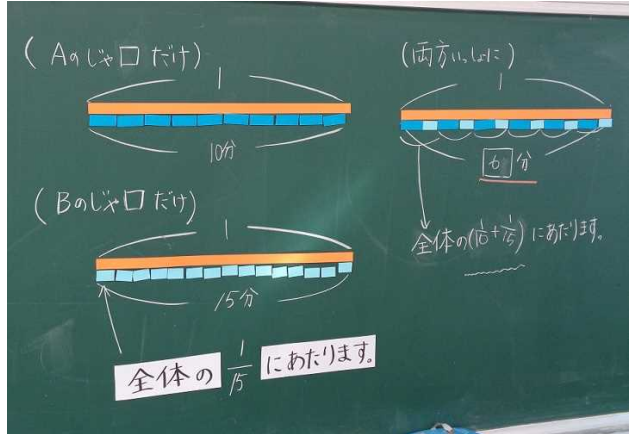
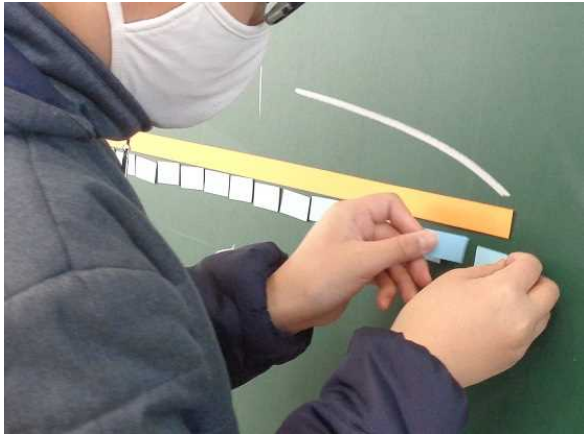
- ・テープ図は、全体と2つの蛇口から出る水の量をそれぞれ別の色で用意し、1つの蛇口だけで給水した場合や2つの蛇口同時に給水した場合の変化の様子を理解しやすくする。
- ・テープ図や説明の仕方のモデル（話型や示し方）を見せたことで、自分の考えを持ち、前で発表することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（啓林館）
- ・テープ図（掲示用）
- ・話型の短冊（掲示用）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

色分けしたテープ図を使うことで、1分間に出る水の量や割合を捉えやすくなったようである。両方を同時に使った場合について、解答後にテープ図を完成させてみたが、視覚的にも分かりやすい振り返りにつながった。



1 本時の目標

- ・ 変化する割合を分数で表し、立式につなげることができる。
- ・ 「あたります」を用い、分数を使って表した割合を表現することができる。

2 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1 問題文を読み、題意をつかむ。</p> <p>2 テープ図を使って考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aの蛇口だけの場合 「1分間に入る量は、 全体の10分の1にあたります」 ・ Bの蛇口だけの場合 「1分間に入る量は、 全体の15分の1にあたります」 	<p>○ 文章と挿絵を往復して読むことで、題意を正確に理解させる。</p> <p>○ 全体が1であることに着目させ、1分間に入る水の量が分数で表せることに気づかせる。</p> <p>○ 「あたります」を読んだり使ったりして表現に馴染ませる。</p>
<p>両方いっしょに使うと何分でいっぱいになりますか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 両方使った場合 「1分間に入る量は、 10分の1と15分の1を合わせたもの にあたります」 ($1/10 + 1/15$) $1 \div (1/10 + 1/15) = 1 \div (3/30 + 2/30)$ $= 1 \div 5/30$ $= 1 \div 1/6$ $= 1 \times 6/1$ $= 6$ <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>○ AとBのテープ図をもとに考え、両方使った場合のテープ図につなげる。</p> <p>○ 両方いっしょに使う場合、足し算になることと、(○+□)で表せることを押さえる。</p> <p>○ 全体が1であることを押させ、立式につなげる。</p> <p>○ 分数の演算に不安があるときは、類似問題を扱うなどして支援する。</p> <p>○ 板書に残したテープ図や板書を使い、テープ図と数値をつなげたり、立式の意味を振り返ったりしながら、説明させる。</p>

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：D-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年5月1日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（中）第3学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：29ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

中学1年生の9月に、ベトナムから来日してきた。日常的な内容についての質問に、簡単な日本語で自分の感想をいうことができる。予習型の取り出し指導を行うことにより、在籍学級における教科の学習の理解が進むようにしている。

3 教科：単元名

○社会科（公民）：私たちの暮らしと経済

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力 学習言語（教科語彙）の習得

5 指導内容の概要（※指導の流れを別紙にて添付） 別紙

6 指導における工夫点・学習の成果

単元のはじめと終わりに取り出し授業を行った。1時間目に、学習言語（学習に必要な言葉の確認と新しく学習する言葉の書き方、読み方、意味）の学習を行った。終わりの授業では、学習言語の確認を行い、学力の定着に努めた。

学習言語をまとめるノートを用意し、そのノートに記入しながら学習を行った。

7 教材・教具

	か かた よ かた 書き方、読み方	れんしゅう 練習		れんしゅう 練習②
1	ざい 財・サービス		1	
2	かけい 家計	学習言語の書き方、読み方の 説明を行い。練習させる。		
3	しょうひしゃ けんり 消費者の権利			
4	しょうひしゃきほんほう 消費者基本法			
5	りゅうつう 流通			
5			5	

8 活動の様子



取り出し授業の様子

指導の流れ[別紙]

1 単元全体の流れ

	取り出し指導	在籍学級
1 時間目	教科書本文等のつまづいている言葉の確認、支援 (本時)	
2, 3, 4 時間目		参加
5 時間目	学習内容の理解確認	

2 授業の流れ(本時)

生徒の活動	指導上の留意点
<p>①単元分の教科書の本文を読み、意味の分からない言葉や表現に印をつける。</p> <p>②本文に書いてある意味の分からない言葉や表現の説明を教師から聞き、専用のノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誤字がないか確認をする。 ・母国で学習している内容もあるため、ベトナム語や英語を使用し、説明すると効果的な時がある。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：D-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（令和2年2月3日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童・生徒の実態

- ① 学年：（小）第3学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：97ヶ月（日本生まれ）
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日本生まれ日本育ちであるが、親とは片言のベトナム語で会話をしているため、十分に意思疎通ができていない。故にダブルリミテッドの状態となっている。教師の指示は理解できるが、自分の思いを相手に伝えるための、語彙や表現力は十分とは言えない。学習が進むにつれて習得していくべき学習言語の定着も徐々に遅れが見られている。

第2学年時に絵画語彙発達検査を受けたが、就学前程度の語彙と判断されている。

3 教科：単元名

○社会科：地域に見られる生産の仕事

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することができる。

5 指導内容の概要（※指導案を別紙にて添付）

6 指導における工夫点・学習の成果

学習を「つまり山の中にかまぼこ工場があるのは～からです」とまとめたので、最終的に学んだことを理解することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書資料
- ・冷凍コンテナ写真
- ・高速道路ができる前とできた後が比較できる地図

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

○板書

9月25日金 **問い** とうていかまぼ工場は山の中にあるのだから。

予想

- 車が少ない
- 着色する野菜が育ちやすい
- 青争か
- 海の近くじゃないと
- かまぼこは食べられない
- きれいな水
- 運びやすい

まとめ

山の中に工場があるのは、

- 広い土地があり、
- きれいな地下水もあり、
- 高く道路がある

からです。

お客様が安全に食べてもらえる
たくさん作って、たくさん食べてもらえる

60年前前 1おく 5300万円
移転した年 108おく 8300万円

売上げか
上がま!!

小さく → 大きく、たくさん作る場所が多い、作れる
広い土地がある

高く道路がある
出荷できる
原料がとどかない

コナナ

○活動の様子



○資料



冷凍コンテナ



工場の新旧の比較

60年ほど前	1おく	5300	万円
移転した年	108おく	8300	万円

売上の変化

第3学年 日本語指導（J S L 社会科）学習指導案

1 小単元 地域に見られる生産の仕事

2 趣 旨

- 本小単元は、学習指導要領解説社会編の第3学年の内容(2)ア(7)の「生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。」とイ(7)「仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活と関連を考え、表現すること。」に基づいて設定されている。

指導においては、〇〇市〇〇町にある蒲鉾工場を事例とする。蒲鉾工場は、数ある蒲鉾生産会社のうち売り上げは全国で毎年10位前後を推移しており、日本中に商品を展開している。企業キャラクターは、CMや絵画コンクールなどから、児童にも馴染みがある。創業は1916(大正5)年で、〇〇市〇〇町で開始している。その後、1989年に現在に移転し運営されている。蒲鉾の原材料であるすり身は、創業当時は〇〇灘でとれた魚を原料としていたが、安定した量の確保、鮮度、費用から、現在は外国産のものを輸入している。売り上げも、約100倍になり、近年は100億円前後を推移している。

児童は、蒲鉾工場を調べることで、自分たちの身の回りの商品は、工場で仕入れや生産、出荷という流れや、安全で美味しい食品を提供している工場の人たちの思い、工場が時代の変化に合わせて事業を拡大していることを知る。そうして、工場と地域との関わりを理解していく。

- 本学級の児童は、第2学年の生活科「まちたんけん」の学習で、小学校区の商業施設や公共施設の見学から「私たちの周りには、私の生活とかかわっている人・モノがある」と、自分たちと地域のつながりを考えてきた。第3学年の「私たちの住んでいる市の様子」では、駅前を中心に、交通の広がりや、〇〇市の地形など場所による違いを学習し、市の様子を大まかに理解してきた。

これまでの児童の学習の様子では、学習課題に対して意欲的に予想をする姿が見られる。一つの学習課題に対して、児童は多様な考えを出し合うため、ねらいに向かって収束させることが指導者にとって重要な手立てであった。活発な話し合いの中でも、少人数ながら意見が言えない児童もいる。その理由として、抽象化された言葉や生活で使用しない言葉の意味が理解できていないことが考えられる。それらの児童には、言葉の意味を、資料を使って理解させるように支援し、学習のまとめの段階で、理解できるように授業を計画してきた。本単元においても、「搬入」「出荷」「衛生」「土地」といった言葉は理解支援が必要であると考えられる。

本小単元を学習することにより、次小単元の「地域に見られる販売の仕事」では、他地域や外国との関わりについて着目し、消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めていることを理解することで、大単元として現代社会の仕組みや働きと人々の生活を捉えることができるようにする。

- 指導にあたっては、第1時で身近な蒲鉾を用意し、〇〇市にある蒲鉾工場で作られていることを知る。そこで、「どのようにしてつくられているのだろうか」と小単元の学習課題をつくる。第2時では、蒲鉾工場の工程の様子を動画で調べ、原料は輸入されたすり身であること、機械と人が分業して生産していること、日本各地へ出荷されていることを理解する。第3時では、蒲鉾生産に携わっている人が白い服を着てい

ることから、安心して安全な蒲鉾を提供するために、衛生面で様々な工夫をしていることに気がついていることを理解する。本時である第4時は、魚のすり身を使っている蒲鉾工場が山の中にあることに問いをもたせる。そして、大きい工場を立てるために広く安価な土地が必要であったこと、きれいな地下水が川の近くにあったこと、原料や商品を運ぶために便利な高速道路が近くにあったことを考えさせ、その結果売り上げが約100倍になったことを理解する。第5時では、つくられた蒲鉾が自分たちの手元に届くまでの道のりを白地図にかくことで、蒲鉾が日本各地で売られ多くの人に食べられていること、蒲鉾を作る人だけでなく運ぶ人や売る人など多くの人に関わっていることを知る。第6時では、学習したことをノートにまとめることで、自分たちと蒲鉾工場とのつながりを考える学習をする。

これらの学習をすることで、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することができると思う。

3 目標

(1) 知識・技能

蒲鉾工場は、地域の人々と密接な関わりをもって行われていることが理解でき、白地図にまとめることができる。

(2) 思考力・判断力・表現力

工場の仕事の工程に着目して、蒲鉾づくりに携わる人々の仕事の様子を捉え、工場の仕事の様子と地域の人々の生活を結びつけて、ヤマサ蒲鉾工場と人々の生活との関連を考え、話し合いを通して自分の考えをノートに表現することができる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

学習の問題を主体的に解決しようとし、学習成果をもとに生活のあり方や地域社会の発展について考え、地域社会に対する愛情や、地域社会の一員としての自覚を養う。

4 単元計画

時間	問い（→は深める問い）	大切な言葉
1	蒲鉾工場を調べるには、どのようにすればいいのだろう。 →蒲鉾工場働く人は、どんなことをしていますか。	工場
2	蒲鉾づくりには、どのような仕事があるのだろう。 →なぜ、機械だけでつukらないのだろう。	原料 すり身 出荷 コンテナ
3	工場で働いている人々は、どのようなようすだろう。 →なぜ、みんな白い格好をしているのだろう。	衛生
4	どうして山の中に蒲鉾工場があるのだろう。 →つまり、どうして山の中にかまぼこ工場があるのですか。 →山の中に蒲鉾工場を移転することで、どんないいことがあるのですか。	広い土地 高速道路 売り上げ コンテナ つまり、～からです。
5	蒲鉾は、どのようにして私たちのところに届けられるのだろう。	地域の人
6	学習をまとめて何が分かりましたか。 →私たちにとって、工場はどんな役割がありますか。	買う人

5 本時の学習

(1) 目標

〇〇市の地形や交通の様子について調べる活動を通して、工場が山の中にある利点を理解ができる。【思考・判断・表現】

ターゲットセンテンス・山の中に蒲鉾工場があると、どんないいことがあるのですか。

(2) 日本語の目標

ア (広い) 土地 高速道路 売り上げ

イ (今の工場の場所に移したのは、) つまり、～からです。

(3) 働かせたい社会的な見方・考え方

〇〇市の地形や交通の様子を総合して工場移転の理由を考える。

(4) 展開

学習活動	支援・指導上の留意点 評価	備考
<p>1 工場が山の中にある理由を予想し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原料は魚のすり身なのになあ。 海のそばの方が便利だと思うのだけど。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして山の中にかまぼこ工場があるのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 資料④を提示し、山の中に移転した理由を考えることで、山の中に工場がある利点を追究できるように本時の問いを立てるようにする。 	資料④
<p>2 工場が山の中にある理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地が広いから大きい工場がつくることができたのではないかな。 高速道路が近くにあるから、入荷や出荷がしやすいと思います。 川も関係しているのかな。 <p>つまり、山の中に蒲鉾工場があるのは</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 広い土地があり 高速道路が近くにあり きれいな地下水がある </div> <p>からです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工場の新旧の写真を並べ、広い土地を得たことを理解できるようにする。 高速道路が近くにある良さに気付かせるために、高速道路が開通前の地図や冷凍コンテナの写真を提示する。 工場の近くに川がありその地下水を利用していることについては、気づく子がいれば深め、気づかなければ、資料①や資料④を見て教える。 「工場ではたらく家長さんからの手紙」を読んだ後、三つの視点を板書し、児童の発表を整理する。 	資料① 資料③ 地図 冷凍コンテナ 教科書
<p>3 山の中にある利点を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い土地があることは、多くの量や種類を作ることができたと思います。 高速道路が近くにあるということは、新鮮な蒲鉾が届けられると思います。 きれいな地下水があるということは、おいしい蒲鉾が作れるようになったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「山の中に蒲鉾工場や山の中にあるということは、どんないいことがありますか」と問うことで、移転した効果を考えるようにする。 考えにくい児童のために、「～があるということは～ないいことがある」と表現支援をし、発表しやすくする。 売り上げの変化を提示することで、工場の移転が蒲鉾工場にとって経済効果が上がったことを理解させる。 	売り上げの変化

<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山の中に工場がある理由は、蒲鉾をたくさん売るためです。 ・広い土地や高速道路があるから、山の中に移転したことが分かりました。 	<p>蒲鉾工場は地理的な利点をいかしていることを理解することができる。</p> <p>・まとめにくい児童には、「山の中に工場がある理由は」と文の書き出しを指定する。</p>	
---	--	--

< JSL参照枠(全体)とDLA(4技能)の評価例 >

文部科学省 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAから

ステージ 学齢期の子どもの在籍学級参加との関係		DLA<話す>					DLA<<読む>					DLA<書く>					DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階
		話の内容とまとめ	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール*	書く態度	聴解力*		
6	教科内容に関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる <input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い					<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる					<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			自律支援付き 学習段階	教科につながる学習段階
5	教科内容に関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる <input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い					<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる <input type="checkbox"/> 日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある					<input type="checkbox"/> 安定して文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける					<input type="checkbox"/> 身近な内容の話聴いて大體理解できる			個別学習支援段階	初期の後期段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる <input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢度が低い					<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける <input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い					<input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話聴いて支援を得てある程度理解できる				
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	<input type="checkbox"/> 二語文 <input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> 文を書こうとする <input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする					評価対象外			初期支援段階	初期の前期段階
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	<input type="checkbox"/> 一語文 <input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さ無し					<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる <input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる									

(一年以内)

(6か月以内)